

東南海・南海地震

－ 県民へわかりやすく伝える地震被害シナリオ －

はじめに

●シナリオの構成

シナリオは、次のように構成されています。

シナリオ1：地震の姿編～地震が発生したら、次のような揺れがきて、身の回りでこんなことが起きます。

シナリオ2：いのち編～自分たちの大切な『いのち』にかかわる、いろいろなことが起きます。

シナリオ3：暮らし編～自分たちの『暮らし』にかかわる、いろいろなことが起きます。

シナリオ4：住宅編～自分たちの暮らしを営む『住まい』にかかわる、いろいろなことが起きます。

シナリオ5：行政サービス編～暮らしにかかわる兵庫県の『行政サービス』は、このように制約されます。

シナリオ6：経済編～地震が発生したら、兵庫県の経済活動や観光は、このような状況になります。

●シナリオの対象地域

対象としている地震：東南海・南海地震

シナリオは、被害のする地域の状況を説明したものです。（兵庫県全域で起こるものではありません。）

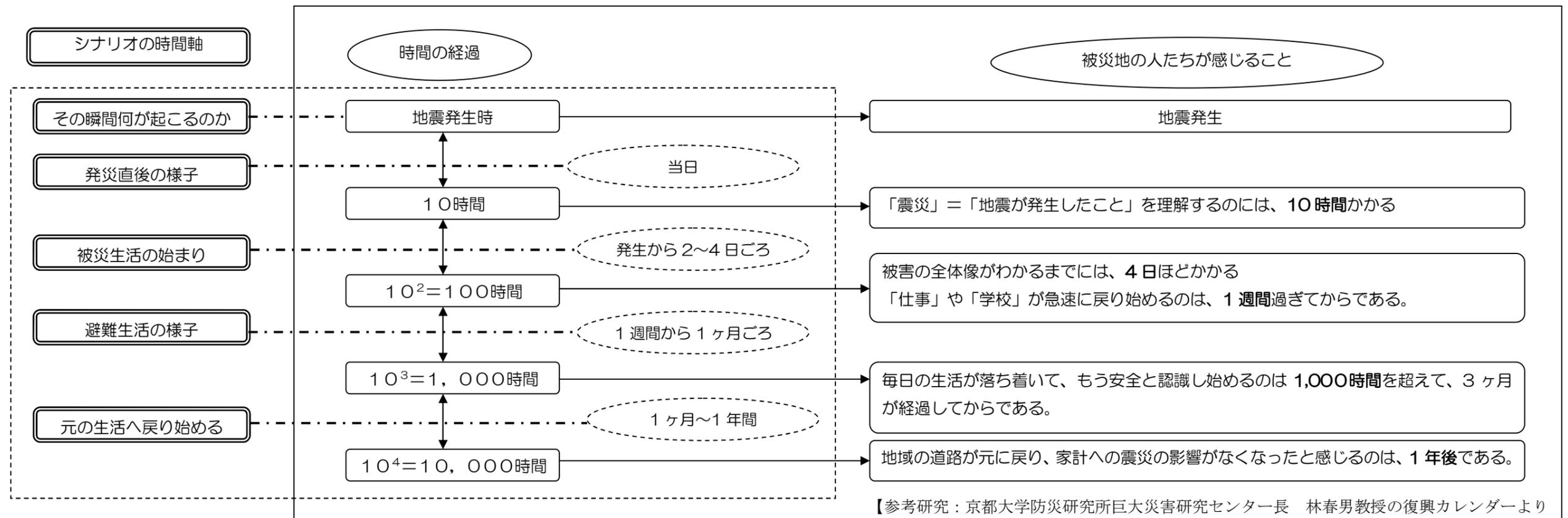
シナリオ1において被害のする地域を最大震度で明記しています。自分の住む地域がどのような揺れになるのか、確認してください。

シナリオ1で建物の倒壊など重大な被害がする地域は、実際に「シナリオ2」以降のような状況になる可能性があります。

なお、シナリオ2～6では、対象とする地震被害シナリオとあわせて、実際に阪神淡路大震災における被害状況を整理しています。

●シナリオの時間軸

シナリオは、地震が発生してから10時間、 $10^2=100$ 時間（約4日）、 $10^3=1,000$ 時間（約1ヶ月）、 $10^4=10,000$ 時間（約1年）を区切りとして、とりまとめています。これは、過去の地震発生した時、被災地の人たちが感じた時間経過の区切りとなっています。ただし、これは「地震の大きさ」により大きく異なりますので、1つの目安と考えてください。

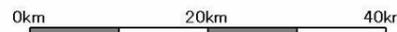
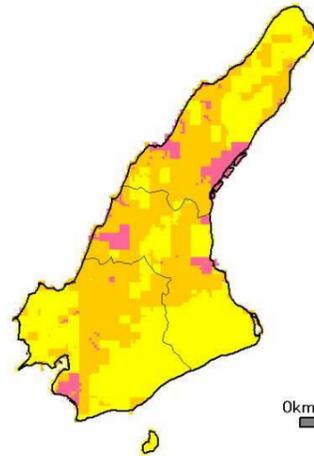
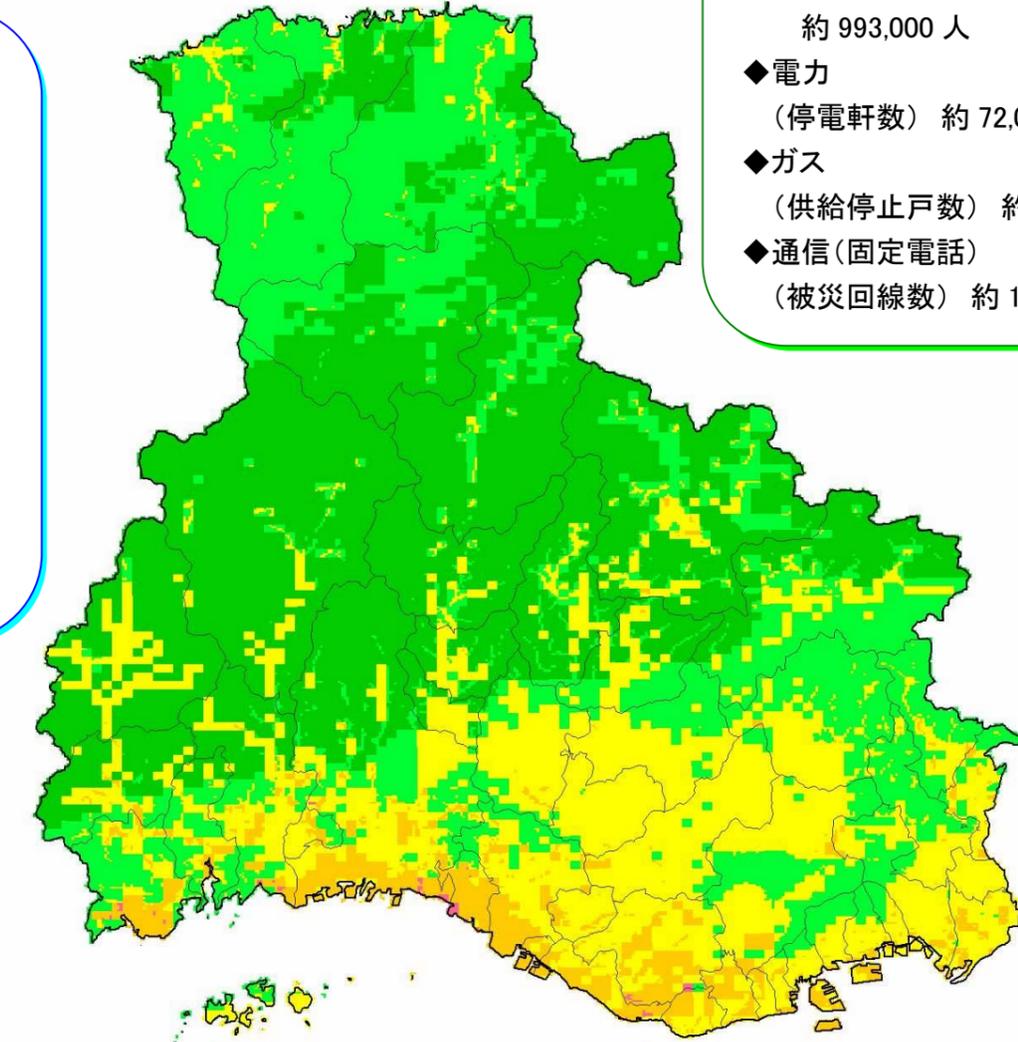


建物の被害

- ◆揺れによる建物倒壊棟数
(全壊) 約 8,700 棟
(半壊) 約 73,400 棟
- ◆がけ崩れによる建物倒壊棟数
(全壊) 約 1,800 棟
(半壊) 約 4,300 棟
- ◆火災による焼失棟数
(冬 18 時) 約 400 棟
- ◆津波による浸水建物数
(床上浸水) 約 21,900 棟
(床下浸水) 約 13,300 棟

人の被害

- ◆建物倒壊による死傷者数(冬 5 時)
(死者) 約 600 人
(負傷者) 約 9,000 人
(重傷者) 約 400 人
- ◆がけ崩れによる死傷者数
(死者) 約 130 人
(負傷者) 約 160 人
- ◆火災による焼死者数
(冬 18 時) 約 60 人
- ◆津波による影響人口
(春夏秋冬 12 時) 約 126,000 人
- ◆避難者数(震災直後) 約 454,000 人
- ◆帰宅困難者数 約 1,096,000 人



ライフラインの被害

- ◆上水道(断水による影響人口) 約 993,000 人
- ◆電力 (停電軒数) 約 72,000 軒
- ◆ガス (供給停止戸数) 約 87,000 戸
- ◆通信(固定電話) (被災回線数) 約 164,000 回線

震度と揺れ等の状況(概要)

0	【震度0】 人は揺れを感じない。	1	【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをすこやかに感じる人がある。	2	【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	3	【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。		
4	【震度4】 ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。	6弱	【震度6弱】 ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	5弱	【震度5弱】 ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	6強	【震度6強】 ●はわいど動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	7	【震度7】 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。
5強	【震度5強】 ●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。	6弱	【震度6弱】 ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	5強	【震度5強】 ●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。	6強	【震度6強】 ●はわいど動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	7	【震度7】 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

震度階級	木造建物(住宅)					震度階級		
	(丈夫)	高い	低い	(こわれやすい)				
5弱			軽微なひび割れ・亀裂			5弱		
5強			軽微なひび割れ・亀裂	ひび割れ・亀裂		5強		
6弱			軽微なひび割れ・亀裂	ひび割れ・亀裂	大きなひび割れ・亀裂	傾く	倒れる	6弱
6強			軽微なひび割れ・亀裂	ひび割れ・亀裂	大きなひび割れ・亀裂	傾く	倒れる	6強
7			軽微なひび割れ・亀裂	ひび割れ・亀裂	大きなひび割れ・亀裂	傾く	倒れる	7

(被害なし)

気象庁「気象庁震度階級の解説」、平成 21 年 3 月より抜粋

シナリオ1(地震の姿編)～地震が発生したら、次のような揺れがきて、身の回りでこんなことが起きます。

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

最大震度		①地震の様子		②いのち	③くらし
		揺れの様子・津波の様子	身の回りの生活空間の様子	いのちに関わる被害の様子	くらしに関わる被害の様子
	県全域	震度6強は、播磨および淡路を中心とした地域津波は、太平洋側の沿岸域で発生する。南あわじ市南部は防潮鉄扉等の沿岸防潮施設の閉閉にかかわらず大きな浸水被害が発生する。また、沿岸防潮施設が全て閉鎖できない場合は、淡路島の河口部に市街地が形成されている地域や阪神、神戸、姫路、相生地区においても大きな浸水被害が発生すると予想される。液状化は、県域南側沿岸部、特に、姫路市、神戸市、尼崎市、西宮市、明石市、加古川市、高砂市などを中心に広範囲に発生する。	揺れにより、建物全体では約7万棟以上が被害を受け、り災建物は全体の約3%に及ぶ。津波により、沿岸部の物流、商業、観光施設に浸水被害が発生する。建物も約21,900棟が床上浸水、約13,300棟が床下浸水の被害を受ける。長周期地震動により、超高層ビルは長時間揺れが継続する。	【死者数】 建物倒壊：約600人(早朝5時) 火災：約60人(冬夕方18時) がけ崩れ：約130人 道路被害：約10人(冬夕方18時) 鉄道被害：数人(冬夕方18時)	【建物被害】 ・揺れ：(全壊)約8,700棟 (半壊)約73,400棟 ・液状化：(全壊)約10,100棟 ・がけ崩れ：(全壊)約1,800棟 (半壊)約4,300棟 ・火災焼失：約400棟(冬夕方18時) ・津波：(床上浸水)約21,900棟 (床下浸水)約13,300棟
7	該当無し				
6強	【都市地域】 神戸市、明石市、高砂市、姫路市、赤穂市 【中山間地域】 たつの市 【離島地域】 洲本市、淡路市、南あわじ市	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くことができません、とばされることもある。 【中山間地域・離島地域】 がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。大きな地割れが生じる。	(屋外) 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。 (屋内) 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	(耐震性が低い木造建物(住宅)) 傾くものや、倒れるものが多くなり、死傷者が多数発生する。 (耐震性が低い鉄筋コンクリート物) 1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものが多くなり、死傷者が発生する。	広い地域で、ガス、水道、電気の供給が停止することがある。 鉄道・道路で安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が行われることがある。
6弱	【都市地域】 尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、加古川市、稲美町、播磨町、相生市、 【中山間地域】 猪名川町、市川町、太子町、上郡町、佐用町、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、豊岡市、加美町、新温泉町、丹波市	立っていることが困難になる。 【中山間地域・離島地域】 がけ崩れや地すべりが発生することがある。地割れが生じることがある。	(屋外) 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 (屋内) 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	(耐震性が低い木造建物(住宅)) 傾くものや、倒れるものがあり、死傷者が発生する。	(ガス) 安全装置のあるガスメーターでは遮断装置が作動し、ガスの供給が停止される。 (水道) 断水、停電が発生することがある。
5強	【中山間地域】 神河町、福崎町、穴栗市、多可町、養父市、朝来市、篠山市	大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。亀裂(規模の小さい地割れ)や液状化が生じることもある。 【中山間地域・離島地域】 落石やがけ崩れが発生することがある。	(屋外) 窓ガラスが破損、落下することがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。備付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。 (屋内) 棚にある食器類や本棚の本で、落ちる物が多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。		(ガス) 安全装置のあるガスメーターでは遮断装置が作動し、ガスの供給が停止される。 (水道) 断水、停電が発生することがある。

シナリオ2 (いのち編) ~自分たちの大切な『いのち』にかかわる、いろんなことが起きます。

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

時間の経過	地震発生	10 時間	100 時間	1000 時間 (約 1 ヶ月)	10000 時間 (約 1 年)
区分	その瞬間何が起るのか	発災直後の様子	被災生活の始まり	被災生活の様子	元の生活へ戻り始める
県全域	〔建物倒壊による最大人的被害〕 (早朝 5 時) 死者 約 600 人 負傷者 約 9,000 人 重傷者 約 400 人 〔津波による最大浸水区域内人口〕 (昼間 12 時) 約 126, 000 人	津波の第 1 波の地震発生からの到達時間は、紀伊水道に面する南あわじ市南部において約 26~42 分に最も早く到達すると予想され、最高水位は、南あわじ市南部で 3.9m~5.3m となる。水位は、大阪湾沿岸部で 1.3~3.9m、播磨灘沿岸部で約 1.3~2.0m 程度となる。	鉄道駅や空港における利用者の足止めにより帰宅困難者が多数発生する。帰宅困難者は、神戸市で約 40 万人、姫路市で約 10 万人、尼崎市・西宮市・明石市で約 5 万人以上など、兵庫県全体で 100 万人以上となる。 一人で帰宅できない小学生や要援護者、行き場のない観光客や外国人がでてくる。		
身の回りでの被害	震度 6 強以上の地域 では、倒壊した建物、転倒した家具等の下敷きによる死傷者が多数発生する。 【都市地域】 震度 5 強以上の地域 では、ガラス・看板等の落下物による被害が発生する。また、エレベータ内閉じ込め被害が発生する。	しばらくは、余震による被害拡大のおそれがある。被災した自宅等に立ち入った場合は、2 次災害発生のおそれがある。 神戸市・尼崎市・西宮市・姫路市・相生市・洲本市・南あわじ市・淡路市の沿岸部および河川流域においては、津波による床上・床下浸水被害が発生する。		避難生活が長期になり、乳幼児・障がい者・高齢者等の災害時要援護者に健康被害発生の可能性が高くなる。	健康であった人も、避難所生活から来る疲労、睡眠不足、ストレス等による体力の低下、病状の悪化等が発生する恐れがある。
街や生活空間での被害	【都市地域】 兵庫県内の石油コンビナート施設の 90% 以上、高圧ガス施設の約 40%、毒物劇物施設の 30% 以上で被害が発生する。 【中山間地域・離島地域】 土砂による生き埋め被害が発生する。	沿岸部の漁業施設や観光施設、建物の地下駐車場や地下店舗に浸水被害が生じ、被害が拡大する恐れがある。 【都市地域】 石油コンビナート施設や高圧ガス施設で火災が発生する可能性がある。 毒物劇物の漏洩により二次被害発生の可能性がある。 【中山間地域】 道路途絶等により孤立化し救助、救援の遅れが発生する。 【離島地域】 海岸線に沿う主要道路が通行不可となり、避難、救急救命、輸送に支障をきたす。	消防能力を上回る火災発生の場合は、延焼火災となる。 【中山間地域・離島地域】 降雨がある場合、がけ崩れ・天然ダム崩壊等の二次被害の危険性が高くなる。	火災が徐々に沈静化する。	
命を守るための救援・救護の様子	震度 6 弱以上の地域 では、病院・消防施設・警察施設の甚大な被害が発生する。 病院：県内の約 3 割の施設で被害 消防施設：県内の約 3 割の施設で被害 警察施設：県内の約 2 割の施設で被害	神戸市・尼崎市・西宮市・姫路市・相生市・洲本市・南あわじ市・淡路市の沿岸部および河川流域においては、津波による床上・床下浸水被害が発生する。 消防拠点施設の被害により救助活動に支障が発生する。 【中山間地域】 道路途絶等により孤立化し救助、救援の遅れが発生する。 【離島地域】 海岸線に沿う主要道路が通行不可となり、避難、救急救命、輸送に支障をきたす。	負傷者が甚大な場合は、救護班の派遣、医薬品の供給などの応援要請を実施する。広域搬送等後方医療支援の要請が発生する可能性がある。 定常的な医療行為（人工透析やレントゲンの現像）ができず、医療活動に支障をきたす。 【中山間地域・離島地域】 道路途絶等により孤立化し救助、救援の遅れが続く	病院の被害が甚大な場合、定常的な医療行為（人工透析やレントゲンの現像）ができず、医療活動に支障をきたす状況が続く。	

【阪神淡路大震災における被害状況と新たに予想される被害】

阪神・淡路大震災における被害状況	<ul style="list-style-type: none"> 倒壊した家屋や家具の下敷きになった犠牲者の数は、「直接死」の死者の 8 割強を占めた 倒壊した建物の 95% は耐震基準を満たしていなかった 兵庫県内の死者のうち、約半数が 65 歳以上の高齢者だった 約 9,300 頭の動物も被災した。 	<ul style="list-style-type: none"> 発生直後から 119 番通報が殺到し、消防職員は直ちに消化・救助・救急活動に出動したが、道路が寸断され、消防車の通行に支障が生じた がれきから自力で脱出できなかった人の約 8 割が近所の住民らによって救出された 神戸市内では地震による断水等により消火栓がほとんどしようできなかった 老朽化した住宅の集中地区は消火や救出活動が困難で大きな被害につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 被災地域はもとより全国各地から、被災地域に住む人々の安否を確認するための情報が強く求められた 	<ul style="list-style-type: none"> 4 月末自衛隊が被災地から完全撤去する。
新たに予想される被害	過去に半壊あるいは一部損壊等の被災を受けた建物は、補修・補強が不十分な場合、初めて被災した建物以上に被害を受ける可能性がある。	地震発生時間によっては、揺れによる自動車事故、列車脱線による被害、車内における閉じ込めが予想され、被災者の避難誘導、避難が必要となる。		

シナリオ3（暮らし編）～自分たちの『暮らし』にかかわる、いろいろなことが起きます。

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

時間の経過	地震発生				
	その瞬間何が起こるのか	10時間	100時間	1000時間（約1ヶ月）	10000時間（約1年）
<p>時間の経過</p> <p>震度の経過</p> <p>建物の被害</p> <p>避難所</p>	<p>【建物被害】</p> <p>揺れ 木造（全壊） 約 7,800 棟 木造（半壊） 約 68,100 棟 非木造（全壊） 約 900 棟 非木造（半壊） 約 5,300 棟</p> <p>津波 床上浸水 約 21,9000 棟 床下浸水 約 13,300 棟</p>	<p>神戸市・尼崎市・西宮市・姫路市・相生市・洲本市・南あわじ市・淡路市の沿岸部および河川流域においては、津波による床上・床下浸水被害が発生する。港湾・漁港、マリーナ等では漂流物や沈没した船舶やコンテナ等により施設が使えなくなる。</p> <p>沿岸部の漁業施設や観光施設、建物の地下駐車場や地下店舗に浸水被害が生じ、被害が拡大する恐れがある。</p> <p>沿岸部の交通手段が絶たれ、緊急搬送、応急復旧作業、海上からの支援作業に支障が出る。淡路島の主要道路は沿岸線に沿っており、至る所で通行不可となる。</p>	<p>県域南側沿岸部や淡路島を中心に避難者が多数発生する。4日後、人口に対する割合は、兵庫県全体で約7%（38万人以上）となり、高砂市、播磨町、洲本市、淡路市で20%以上となる。</p> <p>消防能力を上回る火災発生の場合は、延焼火災となり、建物が焼失する。</p> <p>ライフラインの停止等住むことが困難な地域からの自主避難者も殺到する。避難者数の把握・物資配給等の手配が困難となる可能性がある。震災廃棄物の仮置場への集積が始まる。</p>	<p>被災生活の様子</p> <p>1ヶ月後避難者数は、高砂市、播磨町、洲本市、淡路市で約3%程度と減少する。県全体では、約6万人を超える市民が避難生活を送る。</p> <p>建物倒壊や損壊、ライフラインの停止により自宅生活が困難な地域では、引き続き市民が避難生活を送る。</p> <p>1ヶ月後、震災廃棄物の仮置場からの撤去が始まる。</p>	<p>元の生活へ戻り始める</p>
<p>街や生活空間での被害</p> <p>ライフライン</p>	<p>◆上水道 震度6弱以上の地域では、全域にわたり多数の断水が発生する。断水による影響人口は、約993,000人となる。</p> <p>◆下水道 広範囲に下水機能に支障が発生する。特に、神戸市、加古川市、高砂市、播磨町では2割以上に被害が発生し、相生市、太子町で1割程度、洲本市で若干被害を受ける。</p> <p>◆電力 県全域で約72,000軒の停電が発生する。特に洲本市、淡路市は約2割程度の停電が発生する。（火災、津波による被害は含まず）</p> <p>◆ガス 神戸市、明石市、加古川市、高砂市、姫路市の一部で供給が停止される。</p> <p>◆通信(固定) アクセス系地下設備や架空設備で被害が発生する。淡路島では津波の浸水被害により一部地域で通信不能となる。中山間地域ではがけ崩れ及び道路の寸断等により一部に通信孤立地域が発生する。被災回線数は約164,000回線となる。</p> <p>◆通信(携帯電話) 通信不能となる無線基地局は、周辺の基地局でカバーできると想定。安否確認等の多量の通信が発生し、つながりにくい状況となる。災害伝言板の運用を実施する。</p>	<p>◆上水道 断水状態が続く。（1日後、淡路市では60%以上、高砂市、播磨町、洲本市では50%以上の人々が断水状態となる。）</p> <p>◆下水道 断続的に下水道管の復旧作業が行われるが、依然支障が継続する。</p> <p>◆電力 健全な系統から切替送電を行う。設備の応急復旧を開始する。順次、送電が可能な地域へ応急送電を行い、停電規模は縮小するが、停電が継続する。</p> <p>◆ガス 感電遮断したマイコンメーターの復帰対応開始、ガスの供給を継続している地区でのガス漏れ修繕対応</p> <p>◆通信(固定) 被災直後から発生した安否確認や緊急通信などのコールによりトラフィックが集中、大規模な輻輳状態となる。災害用伝言ダイヤルサービス等を開始する。避難所に特設公衆電話を設置する。</p> <p>◆通信(携帯電話) 津波の影響エリアは現地出動が困難なため、衛星携帯電話貸し出しにより重要通信の確保を行う。バッテリー切れにより通信不能となる基地局が発生した場合、救済措置(移動基地局車等)を実施する。</p>	<p>◆上水道 断水状態が続く。（4日後、高砂市、播磨町、赤穂市、洲本市、淡路市で10%以上の人々が断水状態となる。）</p> <p>◆下水道 断続的に下水道管の復旧作業が行われるが、依然支障が継続する。但馬地域では約4日後、淡路島では約10日後に完全復旧する。</p> <p>◆電力 約2日後には応急送電が完了する。（倒壊、焼失家屋、津波影響エリアを除いて）</p> <p>◆ガス 供給停止エリアの復旧活動開始</p> <p>◆通信(固定) 一部地域で通信困難な状況が続く通信不能となった被災地域に特設公衆電話を増設し被災者の安否確認などに利用する。通信需要に合わせて避難所に特設公衆電話を設置する。</p> <p>◆通信(携帯電話) 通行規制等による立ち入り禁止エリア以外はサービス回復完了する。淡路島では通信がつながりにくい状況は軽減されるが継続する。</p>	<p>◆上水道 断続的に断水が続く。</p> <p>◆下水道 断続的に下水道管の復旧作業が行われる。</p> <p>◆ガス 供給停止エリアの復旧完了（倒壊家屋など除いて）</p> <p>◆通信(固定) 南あわじ市の一部エリアでは津波被害によりサービス回復が3週間程度、その他の淡路島のエリアは2週間程度で回復する。中山間地域で被害が大きいたつの市もサービス回復に2週間程度要する。順次設備普及に伴いサービス回復が完了する。</p> <p>◆通信(携帯電話) 津波影響のあった基地局の応急普及が完了する。</p>	<p>◆上水道 都市地域は、56日目(高砂市)。中山間地域は、109日目(西脇市)。淡路島は、115日目(淡路市)に完全復旧する。</p> <p>◆下水道 断続的に下水道管の復旧作業が行われる。市地域では、97日目(伊丹市)。中山間地域では、147日目(相生市)に完全復旧する。</p> <p>◆ガス 復興対応</p> <p>◆通信(固定) 通信設備の復興計画を策定する。</p>

【阪神淡路大震災における被害状況と新たに予想される被害】

<p>阪神・淡路大震災における被害状況</p>	<p>電気一停電（復旧6日） ガス供給停止（復旧84日） LPガス復旧まで14日 水道断水（復旧42日、全戸90日） 下水道被災（復旧93日） 電話不通（復旧14日） 鉄道一新幹線（復旧81日）、その他（74日） 道路一阪神神戸線（完全復旧622日） 名神（完全復旧193日）</p>	<p>・直後の早朝から、被災者は近隣の施設などに避難した。教職員は避難所運営に追われた。 ・地震発生が早朝であったため、市町職員もすぐに駆けつけることができなかった ・多くの官公庁や病院なども被災し、応急復旧活動の拠点としての役割に支障が生じた ・当日は道路の途絶や渋滞により食料が届かない避難所があった。また量が不足し避難者すべてに配布できなかった</p>	<p>・ピーク時（約1週間後）には約6割が近隣の学校に避難した ・高齢者や障害者など災害時要援護者にとり、避難所生活は困難が多く、寒さによる肺炎や脱水症状等健康問題が発生した。 ・仮設トイレの設置も、急増する避難者の需要に追いつかなかった。 ・物資の保管基地を4カ所開設され、担当者が連日不眠不休で、仕分け・分配作業に追われた。</p>	<p>・長期の避難所設置により、教育活動の早期再開に支障を来した ・断水で風呂に入る事ができなかったため、仮設風呂やシャワーの設置が徐々に進められた。 ・2月10日全ての県立学校で授業が再開 ・2月24日神戸市立小・中学校全校が再開 ・損壊家屋は、解体現場での分別作業が困難で仮置き場に搬入されたが、膨大ながれき処理がいき詰まった。（兵庫県約6年分に相当する量）</p>	
<p>新たに予想される被害</p>	<p>道路沿いの斜面崩壊、道路土工部の崩壊により道路が寸断し、孤立集落が発生する。</p>	<p>鉄道駅や空港における利用者の足止めされる。（帰宅困難者が発生する） 孤立集落では、交通遮断により、空路による傷病者の搬送や救援物資の輸送が行われる。</p>	<p>明石海峡大橋、鳴門海峡大橋が一時通行止めとなる可能性がある。その場合、移動手段が絶たれ、それぞれの場所に滞在する必要がある。 孤立地域外への避難が行われる。</p>	<p>孤立集落では、農地や家畜等、農業基盤・生活基盤の放置による損耗、地域コミュニティーの離散が起こる。</p>	<p>孤立集落では、アクセス道路の復旧が行われ、住民の帰還が可能となる。</p>

シナリオ4（住宅編）～自分たちのくらしを営む『住まい』にかかわる、いろんなことが起きます。

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

時間の経過	100時間	1000時間（約1ヶ月）	10000時間（約1年）	数年後以降
	被災生活の様子	元の生活へ戻り始める	元の生活へ戻る	
県全域	建物倒壊や損壊、ライフラインの停止により自宅生活が困難な状態が続く。 立入区域設定が継続する可能性がある。その場合、自宅生活が困難な状態が続く。	応急仮設住宅での生活が始まる。	避難所（待機所）が閉鎖される。	応急仮設住宅での生活が終わる。

【阪神淡路大震災における被害状況と新たに予想される被害】

阪神・淡路大震災における被害状況	・翌日の18日災害救助法に基づく応急仮設住宅の建設を表明 ・県は、応急仮設住宅建設の方針を打ち出したものの、建設用地の確保に難航する。	・8月、県は「住宅復興3カ年計画」を策定した。 ・応急仮設住宅は、約7ヶ月後（8月11日）にはすべての建設が完了した。	・復興公営住宅の供給戸数が予想以上となり、県は「住宅復興3カ年計画」を改訂した。 ・高齢者や障害者のための地域型仮設住宅（生活援助員派遣型、グループホーム型）が提供された。 ・住宅の再建が進まない地域では、人口が回復せず、商店街が衰退するなど地域の再生は進まなかった。	・1年後の平成10年12月、被災地最後の旧待機所が解消された。 ・5年後の平成12年1月14日、応急仮設住宅の全入居者が退去した。（3月撤去工事完了）
------------------	--	--	--	--

シナリオ5（行政サービス編）～暮らしにかかわる兵庫県の『行政サービス』は、このように制約されます。

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

時間の経過	地震発生	10時間	100時間	1000時間（約1ヶ月）	10000時間（約1年）
	その瞬間何が起こるのか	発災直後の様子	被災生活の始まり	被災生活の様子	元の生活へ戻り始める
県全域	震度6弱以上の地域 では、 病院・消防施設・警察施設 の甚大な被害が発生する。 病院：県内の約 3割 の施設で被害 消防施設：県内の約 3割 の施設で被害 警察施設：県内の約 2割 の施設で被害	神戸市・尼崎市・西宮市・姫路市・相生市・洲本市・南あわじ市・淡路市の沿岸部および河川流域においては、津波による床上・床下浸水被害が発生する。 沿岸部の交通手段が絶たれ、緊急搬送、応急復旧作業、海上からの支援作業に支障が出る。 警察 の拠点施設の被害により、交通規制・警護活動に支障が発生する可能性がある。		避難所 が学校施設の場合、教育の再開が遅れる。 病院の被害が甚大な場合、定常的な医療行為（人工透析やレントゲンの現像）ができず、医療活動に支障をきたす状況が続く。	

【阪神淡路大震災における被害状況と新たに予想される被害】

阪神・淡路大震災における被害状況	・動物の被災に対応するため「動物救援本部」が立ち上げられ、救護センターが設置された。 ・午前7時県は「兵庫県南部地震災害対策本部」を設置	・テレビやラジオを視聴する機会も少なく情報が届かない。 ・国や全国の自治体から多くの職員や支援チームが派遣された。 ・1日で救護物資の保管場所が一杯になる。（県庁地下駐車場）	・行政への問合せや相談が殺到し、1週間後、県は24時間対応する「情報センター」を開設した。 ・教職員は避難所運営に追われ、児童生徒の安否確認や学校再開に向けた取り組みが遅れた。 ・消防隊員や自衛隊員など全国からの応援要員の拠点が不足する。 ・県は2週間後の1月30日「兵庫県南部震災復興本部」を設置し、復興に本格的に取り組む。	・2月より避難所生活者への「震災ニュース」発行 ・県は、2ヶ月後にはあらゆる分野に対応する「震災復興総合相談センター」を開設した。 ・平成7年7月「阪神・淡路震災復興計画」の策定	・翌年8年7月に「阪神・淡路大震災復興支援館フェニックスプラザ」の開設（14年3月閉館） ・県はこころのケアのために「地域こころのケアセンター」を設立
------------------	---	---	--	---	--

シナリオ6（経済編）～兵庫県の経済に関わる被害の様子

【対象としている地震：東南海・南海地震におけるシナリオ】

時間の経過	地震発生				
	その瞬間何が起こるのか	10 時間	100 時間	1000 時間（約 1 ヶ月）	10000 時間（約 1 年）
	その瞬間何が起こるのか	発災直後の様子	被災生活の始まり	被災生活の様子	元の生活へ戻り始める
県全域	<p>【道路】 東播北部や姫路周辺の山陽道、神戸市海沿いなど震度 6 強以上の地域では、橋梁に亀裂や段差等の被害がでる。 これに伴い、播磨地域の中国道や山陽道周辺の緊急輸送道路においても被害が発生する。</p> <p>淡路島では、神戸淡路鳴門自動車道等の橋梁に亀裂や段差等の中小被害がでる。 国道 28 号等の緊急輸送道路（一般道）では中小被害のほか落橋等の大被害が津波による被害がでる。</p> <p>【鉄道】 播磨地域の JR 新幹線、在来線（山陽本線等）、山陽電鉄、神戸電鉄粟生線等などの施設に被害がでる。</p>	<p>【道路】 高速道路は通行止め・被害点検が実施される。一般道も被害状況の把握が行われ、期間箇所の交通規制が予想される。</p> <p>（都市地域） 沿道家屋・建物の崩壊による道路の閉鎖が起こる。</p> <p>【鉄道】 鉄道も運行停止・被害点検が実施される。</p>	<p>【道路】 軽微な被害（段差等）の応急措置が実施される。</p> <p>（都市地域） 緊急輸送ルートが設定され、輸送車両等の集中により幹線道路が渋滞する。</p> <p>（中山間地・離島地域） 斜面崩壊等による道路寸断により大幅な迂回が必要となる。</p> <p>【鉄道】 軽微な被害の応急措置が実施される。被害のない鉄道については順次運行が再開される。</p> <p>→鉄道や幹線道路の通行止めや混雑による輸送（人流・物流）の停滞が起こる。</p>	<p>【道路】 被害の箇所、急傾斜地崩壊箇所の応急復旧が実施される。</p> <p>（都市地域） 輸送車両等の集中により幹線道路が渋滞する。</p> <p>（中山間地・離島地域） 斜面崩壊等による道路寸断により大幅な迂回が必要となる。</p> <p>【鉄道】 被害の復旧措置が実施される。被害のある区間では、代替バスが運行される。</p> <p>→鉄道や幹線道路の通行止めや混雑による輸送（人流・物流）の停滞が起こる。</p>	<p>【道路・鉄道】 被害箇所の応急復旧が行われる。</p> <p>（都市地域） 輸送車両に加え、復旧関連車輛等の集中により幹線道路が渋滞する。</p> <p>（中山間地・離島地域） 斜面崩壊等による道路寸断により大幅な迂回が必要となる。</p> <p>→鉄道や幹線道路の通行止めや混雑による輸送（人流・物流）の停滞が起こる。</p>
	<p>【港湾・空港施設】 姫路港・東播磨港・神戸港・尼崎西宮芦屋港等の岸壁に被害がでる。 淡路島の全港湾にて岸壁等の施設被害、特に南部の福良港・阿万港では津波による被害がでる。</p>	<p>【港湾・空港施設】 姫路港、神戸港および津名港耐震バース、神戸空港は機能を維持する。 空港は発着停止・被害点検が実施される。</p> <p>係留船舶の流出、放流、座礁、沈没、岸壁への乗り上げ被害の危険性がある。 貨物・コンテナ等の浸水被害・流出の危険性がある。</p>	<p>【港湾・空港施設】 漂流物や沈没した船舶やコンテナ等により港湾・漁港施設が使えなくなる。</p> <p>沿岸部の養殖施設の流失等による漁業被害が発生する。</p>		
	<p>【観光】 文化財の倒壊、破損、転倒、出火により被害が発生する可能性がある。 当該施設は神戸市・姫路市に集中しており、それぞれ、その約 20%および約 30%が被害を受ける。また、南あわじ市でも、当該施設の約 70%が被害を受ける。</p>	<p>【観光】 周辺地域で火災が発生した場合には、焼失の可能性ある。 また、余震により被害拡大の可能性もある。</p> <p>ウォーターフロントのレクリエーション施設や観光施設に浸水被害が及び、施設利用者や観光客が被害を受ける危険性がある。 海水浴やプレジャーボート、ヨット等のマリナー利用者が津波に巻き込まれる危険性がある。</p>	<p>【観光】 余震により被害拡大の可能性ある。 雨が降った場合には、被害拡大の可能性ある。</p>	<p>【観光】 交通被害などの影響により、観光客の減少などの被害が発生する。</p>	

【阪神淡路大震災における被害状況と新たに予想される被害】

<p>阪神・淡路大震災における被害状況</p>	<p>神戸港は大部分が被害を受け、物流機能は一時的に壊滅状態となる。</p> <p>地場産業（ケミカルシューズ、清酒、粘土瓦など）が大きな打撃を受ける。</p> <p>国・県・市町して文化財 143 件が被災した。未指定の文化財建造物では調査した 77%（調査数 1,039 件）が被害を受けていた。</p>	<p>神戸港の取扱貨物量は、激減し対前年比 24%（H7.2 月時点）となった。 国が H7.2 月に「神戸港復興の基本方針」を策定 神戸市が H7.4 月に「神戸港復興計画」を策定 H7.8 月県が「産業復興 3 力年計画」を策定</p>	<p>2 年後の H9 年 3 月に復旧工事が完了</p> <p>H7.12 月、「(財)阪神・淡路産業復興推進機構 (HERO)」を設立 中小企業は、平成 16 年時点でも震災前の水準に回復できない。 被害の大きかった神戸では、H7.8 月に約 8 割の観光施設が営業を再開する。 道路被害の影響より、観光客数の回復には時間を要した。</p>	<p>H17.3 月、「(財)阪神・淡路産業復興推進機構 (HERO)」が解散</p>
--------------------------------	--	--	--	---